

令和6年度 江戸川区立小岩第二中学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 進んで学び、協力し合う生徒の育成 規律を守り、責任を果たす生徒の育成 健康で思いやりのある生徒の育成 	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	<ul style="list-style-type: none"> 期待感をもって登校し充実感をもって下校する学校 将来に対する夢や希望を育てる学校 社会人としての能力・態度を身につけることができる学校 進んで学び、協力し合う生徒 規律を守り、責任を果たす生徒 健康で思いやりのある生徒 教育公務員としての自覚をもち、自分をバージョンアップし続ける教師。
前年度までの本校の現状	成果 <ul style="list-style-type: none"> 全国学力調査において、国語が全国平均を上回ることができた。 エンカレッジルームの整備が進み、登校できる生徒が増え、不登校生徒の減少に結びついた。 保護者への発信やアンケートの実施等についてtetoruやFormsの活用を進めることができた。 	課題	<ul style="list-style-type: none"> 体力テストで東京都の平均を上回った項目が少なかった。 生徒用デジタル教科書などデジタル教材の活用で課題が残った。 ボランティア活動にさらに多くの生徒に参加してほしい。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A～D)		「中間」学校関係者評価(A～D)		「年度末」自己（学校）評価(A～D)		「年度末」学校関係者評価(A～D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	ALTを活用した英語教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ALTによる全ての英語の授業での指導 ALTによる全校生を対象とした英会話教室の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 英検の受検率・合格率を20%向上させる。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 第1回英検では受検率が約20%増、合格率はほぼ同等だった。 英会話については毎日昼休みに進めることができています。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ALTの活用をさらに進めて、生徒が自信をもって英語で会話ができるようになってほしい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 3年のスピーキングテストではグレードAが昨年度1.5%が15%に約10倍に増加した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ALTの活用を中心とした英語教育の推進が、スピーキングテストで成果として表れているようだ。 	ALTの活用を進め、スピーキングテストの結果をさらに向上させる。英検の合格者も増やす。
	主体的・対話的な授業	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の授業で、主体的・対話的な取組を行い、生徒の深い学びを実現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力調査で国語・数学のC・D層の割合を40%以下にする。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力調査ではC・D層の割合が国語は48.9%、数学は52.1%となった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力調査については各教科で上がった課題の改善に取り組んでほしい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 3学期に実施した江戸川区の学力調査については今後分析を進め、授業改善につなげる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 3学期には江戸川区の学力調査を行ったとのことなので、その結果も活用し、今後に活かしてほしい。 	国や区の学力調査の結果を活かし、主体的に学ぶ意欲を向上させる。
	外部機関との連携による学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 放課後補習教室の効果的な活用 受験対策講座の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者学校評価で、「きめ細やかな補習」に70%以上の肯定的な評価。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 放課後補習教室は前期定員以上の希望があり、80%以上の生徒が継続して取り組んでいる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 放課後補習教室を積極的に受講しているようで、生徒の学力の向上に結びつくことよい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 放課後補習教室は後期も定員相当の希望があり、70%以上の生徒が継続して取り組めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒が年間を通して継続して補習に臨めたことがよかった。個々の学力の向上につながると良い。 	授業と放課後補習教室を連携させ、一体として学力向上を図る。
	読書科の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> 文献やPCを活用して探究的な学習を実施し、発表を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間に1度以上全学年でまとめ・発表までを実施する。 	B	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の探究的な取組は2学期以降に実施の予定である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ぜひ生徒たちが主体的に探究を進めていくことを期待する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 3学期に各学年で各自の興味・関心に基づいた探究的な学習に取り組み、発表を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 探究学習を毎年継続することで、生徒の学びに向かう力をさらに伸ばしてほしい。 	探究的な学習は各教科とも連携して実施していく。
体力の向上	運動意欲や基礎体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業で毎回補助運動を行い、基礎体力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 体力テストで区内平均より3ポイント以上上回る。 	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業では毎回補助運動を実施している。 体力テストは結果公表後に分析を行い、改善点を確認する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 本校は体力向上が課題の一つと聞いているので、体育の授業等を通して基礎体力が向上するとよい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 体力テストは2・3年男子、1・3年女子が東京都平均を上回った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒が東京都平均を上回っているようで、基礎体力の向上が進んでいるように感じる。 	体育の授業を通してさらに基礎体力の向上を図る。
	運動習慣の向上	<ul style="list-style-type: none"> 朝運動を実施し、運動習慣の確立をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> 年に2回朝運動週間を設定する。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 朝運動週間については2学期の実施に向けて計画を進めている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 朝運動を通して、生徒たちが運動にさらに親しむようになり、運動習慣が身に付くようになることよい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 朝運動は今後実施の予定である。体育の授業では毎回補助運動を実施し、運動習慣を身につけさせている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 朝運動を実施して、それが定着できると、さらに体力向上につながると思う。 	朝運動を定着させ、生徒の運動習慣を
実現に向けた共生社会の推進	特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援委員会を中心に支援が必要な生徒への対応策を検討し、実行する。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援委員会を毎月2回以上行い、対応策を検討・実行する。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援委員会は毎月2回以上実施し、具体的な対応策について検討し、SC・SSW・学校サポート教室などと連携できている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援が必要な生徒が増加していると感じている。引き続き支援を進めていただきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援委員会は毎月2回以上実施し、特別支援が必要な生徒については個票を作成し、個に応じた配慮を行っている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援が必要な生徒が増加傾向にあると聞いている。今後も丁寧な対応を行ってほしい。 	特別支援が必要な生徒への必要な配慮について委員会を通してさらに進める。
	SDGsへの取組	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会を中心にボランティア活動に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 江戸川土手清掃等地域のボランティア活動の機会を年5回以上つくる。 	A	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 9月に生徒が中心となって「GOMIスポ」を実施し、30名以上が参加した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動に積極的に参加する生徒が多くいるようなので、今後も継続してほしい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 小岩駅前ユニセフ募金活動に50名が参加した。小岩3ゼロ作戦、江戸川土手清掃などにも多くの生徒が参加した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアに参加する生徒が多く、とても良いことである。学校及び地域の活性化にもつながる。 	生徒が企画・運営するボランティア活動をさらに推進し、活性化させる。
	ハワイ州ホノルル市の中学校との姉妹校交流	<ul style="list-style-type: none"> Ewa Makai校と姉妹校としての交流を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> Ewa Makai校との直接的な交流を学期に1度以上行う。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> Ewa Makai校の先生・生徒が6月に来校し、姉妹校締結式・歓迎会を実施。9月には校長がEwa Makai校を訪問し、交流を深めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> Ewa Makai校との交流はさらに進んでいるように感じる。今後は生徒同士の交流を深めてほしい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 1月に行われた生徒会長交流会では生徒会生徒が姉妹校交流の活動などについて発表した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は正式に姉妹校締結ができて、校長先生がハワイを訪れることもできたので、来年度はさらなる交流が楽しみである。 	オンラインも活用し、生徒同士の交流をさらに進めていく。
不登校・いじめ対応の充実	エンカレッジルームの活用促進	<ul style="list-style-type: none"> エンカレッジルームを活用して、不登校対策を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> エンカレッジルールを通して登校につなげる生徒数を増加させる。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> エンカレッジルームには9月より校内別室指導支援員が週2日配置され、教員による担当も整備した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 不登校生徒への支援を手厚く進めてほしい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> エンカレッジルームには年間26名の生徒が活用した。継続して使用する生徒や教室に復帰した生徒もいた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 今後もエンカレッジルームが重要な役割を果たすと思うので、その活用をさらに充実させてほしい。 	ステップサポーターや校内別室指導支援員との連携を深め、エンカレッジルームの整備をさらに進める。
	関係諸機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ステップサポーター・スクールカウンセラー・児童相談所・SSW等と連携して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 関係諸機関とのつながりがない生徒をゼロにする。 	B	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 関係諸機関との連携は積極的に実施している。引き続きつながりがない生徒ゼロを目指していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 外部の力も活用して進められてよいと思う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 関係諸機関との連携を進め、つながりがない生徒がいないようにした。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今後も学校・家庭・関係機関が密接につながり、子どもたちの健全な育成を進めてほしい。 	特別支援員会で支援の方向性を定め、学校・関係諸機関とのつながりを深めた
	いじめ防止の推進	<ul style="list-style-type: none"> 年間3回のいじめアンケートの実施といじめへの早期対応・早期解決を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめの未解決をゼロにする。 	B	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 1学期にいじめアンケートを実施し、32件が報告された。28件が解決済みで、4件が指導継続中である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 指導継続中の件も解決になるとよい。2学期以降も継続してアンケートを活用していただきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 3回いじめアンケートを実施した。3学期は22件となり、すべてにおいて聞き取りと必要な指導を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今後もいじめを学校全体で取り組み、解決を進めてほしい。 	今後もいじめの早期発見・早期解決に向けて、学校全体で組織的に取り組む。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」 自己（学校）評価（A～D）		「中間」 学校関係者評価（A～D）		「年度末」 自己（学校）評価（A～D）		「年度末」 学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた 改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学校（園） 地域社会に 開かれた の実現	自校の取組の積極的な発信	・学校ホームページの充実 ・tetoruの活用の推進	保護者学校評価で、「学校の情報を積極的に発信」が70%以上となる。	A	A	A	○学校HPはALTコーナーを新設し、取組の様子を発信した。 ○保護者学校評価では90%以上が肯定的な評価となっている。	A	・学校HPは充実したものになっている。 ・学校から適宜情報が発信されている。	A	○保護者学校評価で「学校の情報を積極的に発信」についての肯定的な意見が90%を超えた。	A	・学校の発信物の多くがtetoru等の活用で電子化され、保護者にも評価されているようである。	・学校HPをより一層見やすいものに改善していく。
	小・中連携教育の充実	小学校が本校を訪問する取組と本校教員が小学校を訪問する機会を作り、交流を深める。	小学校との年に2回の直接の交流を実施する。	B	B	B	○6月に学区内小学校の児童が本校を訪問し、9月には小学校の先生が本校で授業観察や協議会を行い、連携を深めた。	B	・小学校との連携はさらに進めてほしい。小学校からの引継ぎを生かしてもらえるとよい。	B	○年に2回小中連携を実施したほか、3学期には新年度入学予定の生徒についての情報共有を行った。	A	・小学校との連携はさらに進められるとよい。	・小中での情報交換の機会をを広げ、共通の課題に対して連携して解決にあたるようにする。
教育の 特色ある 展開	デジタル技術の活用	・デジタル教科書やICTのツールなどを活用して授業を行う。	教員の80%以上が「授業で積極的にICTを活用」とする。	B	B	B	○ICTを推進する校内研修会を2回実施した。80%の教員が授業で積極的に活用していると回答している。	B	・先生たちのICTのスキルが向上すると、授業の仕方も変わってくると思う。	B	○ICTについては年に3回の校内研修を実施した。80%の教員が授業で積極的に活用していると回答した。	B	・ICTの活用が進み、子どもたちの学びがさらに深まるとよい。今後も推進してほしい。	ICTの活用の教員間格差をなくすために、必要な研修を実施する。
	教員研修の充実	東京都や江戸川区の教員研修プログラムを活用して研修を実施する。	都や区の教育委員会による授業力向上等の研修を年に2回実施する。	B	A	B	○11月に東京都教育委員会による教員の授業力向上に向けた校内研修会を実施予定である。	B	・研修の内容を授業に生かし、生徒たちに還元されるとよい。	A	○11月に東京都教育委員会より講師を招き授業力向上に向けた研修を実施した。	B	・今後も定期的に研修の機会を作り、授業力向上をさらに進められるとよい。	来年度も区教委訪問や都教委訪問を実施し、教員の資質向上に努める。
	部活動の地域移行の推進	部活動の地域移行に向けて、外部指導員による指導を推進する。	区教育委員会や関連部署との連携を進め、年に3回の協議会を行う。	A	A	A	○剣道部の地域移行に向けた取組を区教委等とも協議して進め、8月には他校との合同練習を実施した。	A	・部活動の地域移行は先生たちの働き方改革にむつながるので、さらに進められるとよい。	A	○剣道部の地域移行に向けた取組を年間を通して継続して行った。合同練習会も複数回実施し、地域移行を進めることができた。	A	・剣道部の地域移行に向けた取組がとても楽しみである。	剣道部の地域移行をさらに進め、生徒の部活動の充実と教員の働き方改革を進める。
	学校における働き方改革プラン	教職員の働き方の見直しを進め、長時間労働の是正に取り組む。	・月の超過勤務時間が45時間以内の教職員を60%以上にする。	B	B	B	○月の超過勤務時間が45時間以内の教職員は6月で41%であった。	B	・働き方改革はさらに進められるとよい。	B	○月の超過勤務時間が45時間以内の教職員は2月で約70%となり、改善が見られた。	B	超過勤務時間が減少傾向なのは良いが、さらに働き方改革を進めてほしい。	月の超過勤務時間が45時間を超える教員がゼロとなるように働き方改革を進め。